

Asia Indicators

発表日: 2023年11月24日(金)

台湾、半導体関連を中心に受注、生産に底打ちの動き (Asia Weekly(11/20~11/24))

~ニュージーランドの輸出は底入れに一服感、輸入は下押しの動きを強める様相~

第一生命経済研究所 経済調査部

首席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
11/20(月)	(タイ)7-9月実質 GDP(前年比)	+1.5%	+2.4%	+1.8%
	(マレーシア)10月輸出(前年比)	▲4.4%	▲5.1%	▲13.8%
	10月輸入(前年比)	▲0.2%	▲9.7%	▲11.1%
	(台湾)10月輸出受注(前年比)	▲4.6%	▲4.9%	▲15.6%
11/21(火)	(ニュージーランド)10月輸出(億 NZドル)	54.0	--	47.7
	10月輸入(億 NZドル)	71.1	--	71.9
	(香港)10月消費者物価(前年比)	+2.7%	--	+2.0%
11/22(水)	(台湾)10月失業率(季調済)	3.41%	--	3.44%
	(シンガポール)7-9月実質 GDP(前年比・改定値)	+1.1%	+0.7%	+0.7%*
11/23(木)	(シンガポール)10月消費者物価(前年比)	+4.7%	+4.5%	%
	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	6.00%	6.00%	6.00%
	(台湾)10月鉱工業生産(前年比)	▲2.32%	--	▲6.93%
11/24(金)	(マレーシア)10月消費者物価(前年比)	+1.8%	+1.9%	+1.9%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]~主力の輸出財である半導体など電子部品関連を中心に受注動向は底入れの動きを強める展開~

20日に発表された10月の輸出受注額は前年同月比▲4.6%と14ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲15.6%)からマイナス幅は縮小している。前月比も+5.74%と前月(同▲0.92%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の受注が大きく底入れしているほか、電気機械関連や機械製品関連で受注動向が改善している様子がうかがえる。国・地域別でも、中国本土向けは頭打ちの動きが続いているものの、米国向けや日本向けなど主要国向けのほか、ASEANなどアジア新興国向けに底打ちの動きが出ていることが押し上げに繋がっている。

22日に発表された10月の失業率(季調済)は3.41%となり、前月(3.44%)から0.03pt改善している。失業者数は前月比▲0.3万人と前月(同+0.2万人)から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど調整の動きが進んでいる様子がうかがえる。新卒、既卒問わず減少が進む動きがみられるほか、非自発的失業の動きも頭打ちの動きを強めるなど企業部門を取り巻く環境も改善している。一方の雇用者数は前月比+0.9万人と前月(同+0.0万人)から拡大ペースが加速してい

る上、中期的な基調も拡大ペースが加速するなど底入れの動きを強めている。分野別では、製造業や鉱業部門で調整の動きがくすぶるものの、サービス業や建設業における堅調な動きが全体を押し上げる展開が続いている。

23日に発表された10月の鉱工業生産は前年同月比▲2.32%と17ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲6.93%)からマイナス幅は縮小している。前月比も+3.37%と前月(同+0.56%)から4ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。鉱業部門や製造業部門など幅広い分野で生産拡大の動きが確認されており、製造業のなかでは主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、自動車など輸送用機械関連、化学製品関連など輸出関連産業を中心に生産底入れの動きを強めている様子がうかがえる。

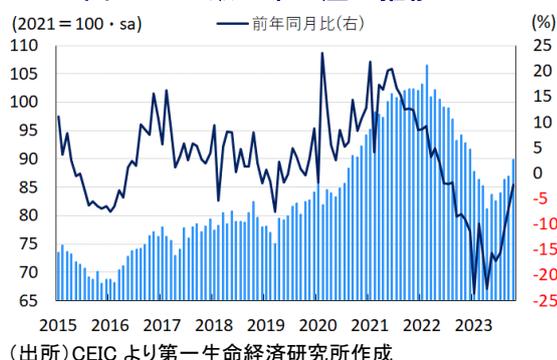
図1 TW 輸出受注の推移



図2 TW 雇用環境の推移



図3 MY 鉱工業生産の推移

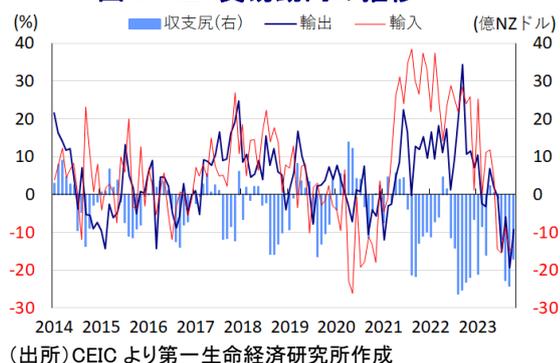


[ニュージーランド]～底入れした輸出に一服感が出る一方、輸入も下押し圧力を強める展開が続いている～

21日に発表された10月の輸出額は前年同月比▲9.3%と5ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲19.4%)からマイナス幅は縮小している。ただし、前月比は▲1.6%と前月(同▲3.2%)から2ヶ月連続で減少しており、底打ちの兆しがみられた流れに一転頭打ちの様相を強めるなど一進一退の動きが続いている。財別では、主力の輸出財である乳製品や食肉などの輸出に底堅い動きがみられるものの、木材や木製品のほか、原油の輸出が下振れする動きがみられるほか、機械製品関連や果物などの輸入も鈍化するなど輸出全体を下押しする展開が続いている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けやASEANなどアジア新興国向けに底入れの動きがみられるほか、日本向けや米国向けに底堅い動きがみられるものの、隣国の豪州向けやEU向けなどが頭打ちの動きを強めてい

ることが輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比▲14.0%と5ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲14.7%）からわずかにマイナス幅は縮小している。ただし、前月比は▲4.9%と前月（同+1.4%）から4ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、機械製品関連の輸入は堅調に推移しているものの、原油や石油製品関連のほか、電気機械関連など幅広い財で輸入に下押し圧力が掛かる動きがみられる。結果、貿易収支は▲17.09億NZドルと前月（▲24.25億NZドル）から赤字幅が縮小している。

図4 NZ 貿易動向の推移



[シンガポール]～景気底入れの動きが確認される一方、足下では幅広くインフレ圧力が強まる動きもみられる～

22日に発表された7-9月の実質GDP成長率（改定値）は前年同期比+1.1%となり、先月公表された速報値（+0.7%）から+0.4pt上方改定された。前期比年率ベースの成長率も+5.57%と速報値（同+4.00%）から上方修正されている上、前期（同+0.23%）から2四半期連続のプラス成長で推移するとともに、伸びも加速するなど底入れの動きを強めている。世界経済の減速懸念の高まりにも拘らず財輸出は底堅い動きをみせているほか、国境再開や世界的な人の移動の活発化を追い風にサービス輸出は堅調に推移しており、輸出は底入れの動きを強めている。また、インフレは頭打ちして実質購買力が押し上げられていることに加え、雇用の底堅さも追い風に家計消費は底入れの動きを強めているほか、政府による公共投資の進捗の動きを反映して政府消費や固定資本投資も底入れの動きを強めるなど、幅広く内需が拡大している。なお、内需の堅調さを反映して輸入は輸出を上回るペースで拡大しており、純輸出（輸出－輸入）の成長率寄与度は前期比年率ベースで▲13.22ptと大幅マイナスとなっている。在庫投資による成長率寄与度も前期比年率ベースで+2.23ptとプラスとなるなど押し上げられているものの、上述した状況を勘案すれば足下の景気は見た目以上に堅調と捉えることが出来る。

23日に発表された10月の消費者物価は前年同月比+4.7%となり、前月（同+4.1%）から伸びが加速しており、8月を底に加速の動きを強めている。ただし、前月比は+0.20%と前月（同+0.50%）から上昇ペースは鈍化しており、原油価格が底入れの動きを強めたことを反映してエネルギー価格は上昇傾向をつよめているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇傾向が続いており、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがみられる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.3%と前月（同+3.0%）から加速しており、インフレ率同様に加速に転じる動きが確認されている。前月比も+0.39%と前月（同+0.13%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストが押し上げられていることに加え、通貨SGドル安の進展を受けた輸入インフ

レ圧力の高まりも重なり幅広く財価格が上昇する動きがみられるほか、経済活動の正常化を受けてサービス物価も上昇するなど、全般的にインフレ圧力が強まっている様子が見えてくる。

図5 SG 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移

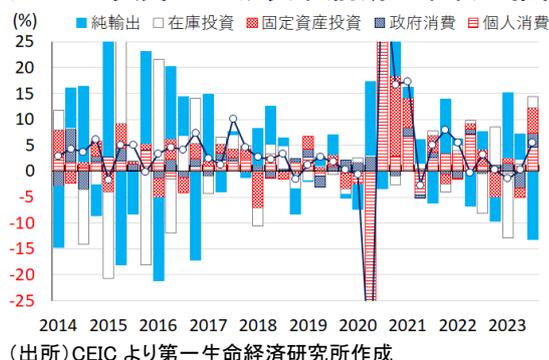


図6 SG インフレ率の推移



[マレーシア]～輸出入双方に底打ちの動きが確認される一方、インフレ率は頭打ちの動きを強める展開が続く～

20日に発表された10月の輸出額は前年同月比▲4.4%と8ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲13.8%)からマイナス幅は縮小している。前月比も+1.6%と前月(同+1.0%)から4ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底打ちの動きを強めている様子が見えてくる。財別では、主力の輸出財である電子部品関連や機械製品関連のほか、商品市況の底入れの動きを反映して石油製品関連や化学製品、金属関連のみならず、農産品関連など幅広い分野で底入れの動きが広がっている様子が見えてくる。国・地域別では、米国や日本など先進国向けが頭打ちする動きをみせる一方、中国向けやASEANなど周辺国向けをはじめとするアジア新興国向けの堅調さが輸出全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比▲0.2%と8ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲11.1%)からマイナス幅は縮小している。前月比も+13.4%と前月(同+6.1%)から2ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出同様に底打ちの動きを強めている様子が見えてくる。財別では、輸出の堅調さを反映して電子部品関連や電気機械関連など素材・部材に関連する輸入が堅調な推移をみせているほか、原油価格の底入れの動きを反映して原油関連の輸入額が大きく押し上げられていることも輸入全体の底入れを促している。結果、貿易収支は+128.69億リンギと前月(+243.74億リンギ)から黒字幅が縮小している。

24日に発表された10月の消費者物価は前年同月比+1.8%となり、前月(同+1.9%)からわずかに伸びが鈍化している。前月比は+0.08%と前月(同+0.08%)から同じ伸びで推移しており、統制価格が敷かれているエネルギーの物価は落ち着いた推移が続いている一方、穀物や生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きが見られる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.37%と前月(同+2.45%)から伸びが鈍化しており、前月比も+0.00%と前月(同+0.31%)から上昇ペースも鈍化している。経済活動の正常化の進展を受けてサービス物価に上昇圧力が掛かる動きが見られる一方、財価格に下押し圧力が掛かる動きが見られるなど物価を巡る動きはまちまちの様相をみせている。

図7 MY 貿易動向の推移

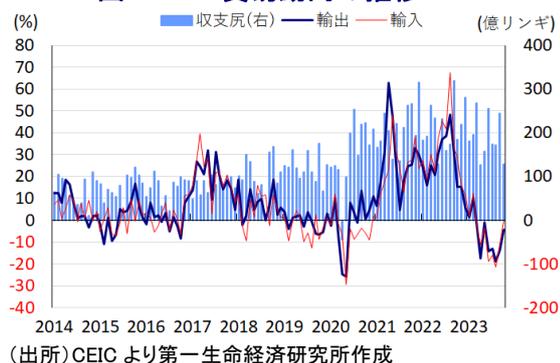


図8 MY インフレ率の推移



[香港]～生活支援策の時期のズレが影響してインフレは加速も、全般的にインフレ圧力は後退している様子～

21日に発表された10月の消費者物価は前年同月比+2.7%となり、前月(同+2.0%)から加速して13ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も+1.04%と前月(同+0.38%)から上昇ペースが大幅に加速しているものの、過去数ヶ月に亘って物価上昇をけん引してきた食料品の物価は落ち着きを取り戻す動きをみせている。なお、香港においては2007年以降、断続的に公営住宅を対象とする賃料減免措置をはじめとする生活支援策が実施されており、当月はその時期のズレが影響する形で公営住宅の賃料やエネルギー価格が押し上げられたことが影響している。よって、生活支援策の影響を除いたベースのインフレ率は前年同月比+1.7%と前月(同+1.8%)からわずかに伸びが鈍化している。前月比も+0.00%と前月(同+0.47%)から上昇ペースが鈍化しており、幅広く財価格は落ち着いた推移をみせているほか、サービス物価も上値が抑えられるなど、全般的にインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。

図9 HK インフレ率の推移



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。